

佐倉のカントリーハイク

Vol.1

ユーカリが丘く
畔田

MAP

京成本線
ユーカリが丘駅



1 上座貝塚(じょうざかいづか)



昔は縄文人の小さな集落がここにありました。そのころ、今の低地や印旛沼の周辺は全部浅い海でした。貝塚というのは、村人たちがカキ、ハマグリ、シオフキなどの貝を潮干狩りで採って食べて、その殻を捨てたところです。貝塚の上にはエノキ、クヌギ、ハンノキなどが小さな林をつくっています。

2 上手繰川(かみたぐりがわ)

上手繰川は北総の典型的な小川です。はるか南にある四街道の街中に源流を構えて、畔田沢を始め多くの支流から水を集めながらやがて印旛沼放水路に流れ込みます。このような小川は田んぼの排水を流すという大事な役割を果たしながら、豊かな生態系を育んで、多くの生き物に絶好の棲みかや餌場を与えます。カルガモのつがいやオオバンが水面に浮いていますが、なんといっても一番人気のアトラクションは、枝にとまって、小魚を狙う天然宝石ともいわれるカワセミです。川の堤防道も大人気の散歩コース。



3 生谷高産霊神社(おぶかいたかむすびじんじや)

手繰川の谷間から東側の斜面を登ると、創立1350年とされる高産霊神社が台地の縁に聳えています。本殿には「因幡の白兔」の神話エピソードで有名なオオクニヌシを祭っていますが、他にも、富士山の留守神でもあるコノハナサケヤヒメを子安様として奉祀する祠や、昔の村人にとってはなんよりも怖かった疫病を司る疱瘡神の祠など、五柱の神社が集まっています。神社や祠の間にスダジイ、スギ、モミ、カヤなど立派な木が鎮守の森を形成しています。地域の産土(うぶすな)神を祭るこのような小さな神社の森は、コゲラやフクロウなどの野鳥に巣穴を提供し、または生命エネルギーを送り届け、心を癒してくれる素敵なローカル・パワー・スポットでもあります！神社の近くには、人生の最後で苦しまず長患せず美しく死ねるといふ珍しいご利益で評判のある「ぼっくり弁天」や、入口にたくさんの子安観音の石仏を並べた専栄寺もあります。

4 畔田薬師堂(あぜたやくしどう)

谷間の西側の支流を遡ると、木造薬師如来立像が安置されている正光寺の薬師堂にたどり着きます。薬師如来はもともとヒーリングの仏であります。地元の人たちの話によれば、この薬師様は特に目の病気に強いようです。正光寺にでると弘法大師の祠や文久4年(1864)に彫られた見事な子安観音が立っています。子安信仰は北総を代表する女性専用の民間信仰で、村の若い嫁たちは月一回集まって、医療が普及する以前の時代、女性に

とって最も真剣な心配事であった安産や子育てを祈ります。その守護神である子安観音は穏やかな優しい顔つき、右膝を立てた座りポーズ、乳を出して赤ん坊を抱いている姿で描かれています。同じ道に大きなシラカシの木の下に「風邪の神様」が祭られている祠や、スダジイとイチヨウの大木に守られた春日神社もあります。神社の本殿を右に回ると、子安観音などの石仏はヒサカキの低木の間に眠っています。サカキのあまり生えない関東地方では、その代わりにヒサカキの小枝を神棚や神社に供えます。



5 佐倉西部自然公園(仮称)



上手繰川の西側には、畔田沢を中心に大小4本の支流がそれぞれ狭い谷間を形成しています。通称谷津(やつ)と呼んでいるこれらの谷間は南関東を代表する地形で、奥に進むほどさらに狭くなり、低湿地の両側に斜面林と呼ばれる豊かな森がうっそうと生い茂っています。ここで、2006年に佐倉市が73.8ha(東京ドーム約15個分)の土地を買い取り、自然公園として整備を進めています。公園は4つの谷津とその間の台地を含み、多様な環境で豊かな生態系と多くの生き物を育んでいます。変化に富んだ散策コースも整備されています。

6 ちゃぶくばあさん

散策道の入り口に一本のエノキの老木が立っています。地元の言い伝えとして、この木に風邪の神様が宿っています。お茶を供えたと風邪が治ると言われます。エノキは枝を横に広げて、夏の木陰や雨宿りに最適なので、古くから道の二股や一里塚などに植えられてきました。この地域に風邪や咳の神様が手厚く祭られているのは、阿多津の伝説と深い関係があるでしょう。



7 庚申塚(こうしんづか)

女性の子安信仰に対して、庚申信仰は北総地域を代表する男性の民間信仰で、もともとは中国の道教から発達して、古く平安時代から日本にも伝わりました。庚申(干支で「かのえ」「さる」の意味)の夜、男が寝てしまうと三匹の虫のようなものが体から抜け出て、天帝様にその人の罪を報告します。勿論、男は罪の分、罰を受けます。これを避けるため、集落の男たちは庚申の夜に集まって、夜明けまで眠らずに起きている。庚申の守護霊は青面金剛王(しょうめんこんごうおう)という仏様。顔を荒々しくしかめて、冠にどくろやトグロを巻いた蛇の姿を飾ります。手には劔や矢、弓などの武器を持ち、邪鬼の背中の上に立ちます。いかにも強そうな青面金剛王は、集落の入り口や境に構えて悪い気や伝染病を運び込もうとする怨霊を追い払う精神界のガードマンの役割も果たしてくれます。この庚申塔は右の方が寛政12年(1800)、左が元文5年(1740)に彫られた見事なものです。



8 ビューポイント

ここから見ると、ユーカリが丘の高層マンションを背景に、手前に谷津の田んぼと斜面林が見事なコントラストを創っています。佐倉の住宅街と田園景観がいかにか密接しているのかが一目瞭然です！



9 ユーカリが丘緑道

市道の交差点から駅に向かって階段とランプの急坂をかけ登ります。この遊歩道は名前の通り、ヤツデ、ヤマボウシ、シラカシ、クスノキなど、多くの樹木と出会う楽しい道。このコースのフィナーレとしては最高です。

